

定着 WG

意見交換内容（メモ）

【日時】2018 年 8 月 16 日（水）15 時～17 時

【場所】情報科学研究科 C 棟 6 階 C609

【構成員（敬称略）】清水（座長・情）、尾上（情）、村田（情）、藤原（情）、増澤（情）
若宮（情）、原（情）、平岡（生）、深川（生）、細田一（情）、津田（情）

【陪席（敬称略）】鐘ヶ江大学院係長（情）

【欠席】細田耕（基）

来年度以降の HWIP 定着計画について議論し以下の方法を WG として決定した。企画運営委員会です承を得るものとする。

1) 大学からの奨学金の賦与の仕方について

色々なパターンをシミュレーションの上、協議し以下のようにすることとした。

(ア) HWIP 履修生 1、2 年次 (M1、M2)

- ① 月額 2 万円×12 か月（年間 24 万円）
- ② 対象：履修生申請者

(イ) HWIP 履修生 3 年次以降 (D1、D2、D3)

- ① 月額 3 万円×12 か月（年間 36 万円）
- ② 対象：履修生申請者

- ・大学の規則により他の返還免除奨学金を月 5 万円以上受けているもの、学振研究員は除外する。
- ・履修生は前年度末までに奨学金に申請し、担当教員でチェックし支給する。
新年度入学者は、入学月に申請する。
- ・大学から 2000 万円奨学金に充てられるので全員に受給することは可能。
- ・3 年次以降の履修生は別途、授業料免除となる（予定）。
- ・3 年次以降は学振研究員になれるよう申請を強く指導する。
- ・研究科から RA 経費を別途支給できるよう検討をお願いします（支給の方法、額などは各研究科に一任する）。（年間 30 万円、50 万円など）
- ・HWIP は履修生数が多いので一人当たりの額を上げられるよう大学にお願いします。

2) 平成 31 年後以降のカリキュラムなど（教職員 3 名ずつを想定 または 以降は 1 名ずつを想定）

(ア) 教員 3 名：教務、産学と融合研究、海外連携を担当

(イ) 職員 3 名：教務、会計、産学および海外

(ウ) 履修生定員 20 名

(エ) 平成 31 年度については全カリキュラム、科目を継続することを WG として決め

た。将来、運営体制が縮小すると判断した場合の運営については研究科の科目との読み替えなどを行って負担を減らし定着させていく。

3) 積極的拡張か縮小かについての議論を行った

本プログラムの運営の方向性について議論した。継続審議していく。

(ア) 大学本部の意向を聞きつつ活動方針を柔軟に決めることとした。

(イ) 卓越には、あることを前提にしないが、行くことになる準備はタイミングを見て行うこととした（本年度の卓越申請採択時がチェックポイントの一つ）。

(ウ) HW のコンソーシアム（どちらの方向性でも立ち上げレガシーを残す）について検討することとした。

① 教員、履修生、修了生、企業

② アドバイザ：小粥先生、国際アドバイザリ委員

③ 大阪大学の会、3 研究科の会？

④ 企業からの共同研究、資金提供受け皿、学生の紹介窓口などを行う

⑤ HW の学理追及、社会に還元、人的 NW 形成を目的とする

⑥ 年に一度はイベントを開催（研究発表、マッチング、インターン説明など）

⑦ IT を活用して情報交換の仕組み

(エ) コア履修生以外の参画

① 科目ごとに履修を可とする学生を受け入れる。毎年 40 人程度

② 奨学金、必須単位、アドバイザリ制度、研究費 PI 権利、学生活動幹事権利、HW 学位はない。

③ 融合研究への参加を認める（単位は出す）。年度初めに参加の意思を確認する。

④ 年に一度のイベントには参加必須（(エ) ⑥）

⑤ D に移る段階でコアと非コアを移動できる

⑥ コア履修生以外の受け入れのひとつとして、平成 31 年度大学の高度副プログラムを利用を検討する。（10 月中旬締め切り、高度副プログラムは研究科から申請（情報科学研究科より））（細田一）8 単位、修了証あり

(オ) 研究科への定着について

① 情報科学研究科の正規カリキュラムの中に HWIP を定着できるかについて課題を洗い出し、可能であれば平成 31 年度に特別コースとして設置できるか検討することとした。（鐘ヶ江、藤原）

② 課題

1. 研究科とプログラムで修了単位数が異なる

2. HWIP を付記する学位を研究科で出せるか

3. コースと専攻の関係性

(カ) 広報について

① 上記の基本方針にのっとって来年度の新入生に対して選抜応募のための広報を実施する。(若宮)

1. 説明会
2. 履修要項

② 企業とのマッチングイベントを 12 月開催の方向で検討いただく (若宮)

1. 履修生、修了生の良さを担当企業、担当以外の企業にも見せるマッチングイベント開催を計画
2. 履修生の研究、融合研究を紹介
3. 交流 (優秀な人材を早めに企業に見せる)
4. ゼニスに裏方として参加してもらう
5. 履修生には 8 月 31 日に説明会を開催

(キ) その他

① 企業からの共同研究の受け入れ検討 (細田一)

1. 担当教員の責任の明確化が必要
2. 研究科で受け入れる?

今後の予定

第 3 回会議 10 月 18 日 (木) 15 時から 17 時

第 4 回会議 12 月 20 日 (木) 15 時から 17 時

参考

8 月 31 日 総長と履修生の懇談会

10 月 12 日 現地視察予定日 (実施されるかどうか未定)

11 月 本部、理事、総長とヒアリング対応会議

11 月 21 日 事後評価ヒアリング (東京) 総長、小林理事、尾上 PG 責任者、清水コーディネータ出席予定